令和3年度 第5回 (確定稿) 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時:令和4年1月11日(火)18時00分~19時30分

■会 場:オンライン(Zoom)

1. 報 告 事 項

- (1) 業務報告(令和3年11月・12月)について(資料1)
- (2) コーディネート状況月次報告(資料2)、コーディネート実績(資料3)
- (3) 軒下ふれあいバザー開催報告(資料4)
- (4) 災害ボランティア養成講習会開催報告(資料5)
- (5) 業務予定(令和4年1月・2月)について(資料6)

○事務局より、(1)~(5)について資料を用い説明を行った。

【委員 長】 行事保険の加入状況から回復傾向が見られたが、コロナ感染の急増でどうなるのか。

【副委員 長】 12月にボランティア保険の天災Aプランの加入者が二桁と多いが、なにか理由があるのか。

【事 務 局】 天災プランとは、ボランティア活動中の地震、噴火、津波などによる怪我の補償があるため、被災地などで活動する方に勧めている。今回、加入された団体は市内で活動されているが、パンフレットで保険会社が勧めているのを参考に加入されたものと思われる。

【委員 長】 軒下ふれあいバザーは、開催するための条件が厳しく、参加が2団体であったと聞いている。

【事 務 局】 開催にあたり例年とは異なり、建物の管理者と交渉しなくてはならず条件が厳しかった。「毎年楽しみにしている」と市民の方からの声掛けもあり、来年も開催していきたい。

【理 事】 災害ボランティア養成講習会に参加し、この地域で災害が起きた時、何ができるのか、ロールプレイングや参加者同士で話し合うことができた。日頃から様々な人たちとコミュニケーションをとって、繋がっていくことが一番の備えになるのではないかと感じた。

【事 務 局】 今回は、災害ボランティアについて様々な人に知ってもらうことを目的に企画したので、今後も関心を持ってもらえる取り組みをしていきたい。

2. 審 議 事 項

- (1) 令和3年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について
○事務局へ1月17日(月)までに修正をいただき、完了したものを確定稿とする。

3. 協 議 事 項

- (1) ボランティアのつどいについて(資料7)

【事務局】協議事項ではあるが、進捗報告とさせていただく。目的、効果、対象、についてはこれまで運営委員会の中で頂いた意見をもとに資料にまとめた。発行数についてはA3を二つ折りにしたものを12,000部と考えている。配布先は市内の小・中学校と西東京ボランティア・市民活動センターの登録ボランティアに届けたい。12月20日に副委員長と委員の2名にご協力いただき、内容について話し合いを行った。イラストをうまく活用し、ボランティア活動を周知していきたい。デザイン、制作は市内のアニメ制作会社に相談に行く予定である。

【副委員長】良くまとめられている。誰に向けて、何のためにという目的が大事である。

【委員】子どもたちにとって親しみやすい作りになっていて良い。

【理事】「自分の得意なことで人の役に立てると良いね。」というようなことを載せても良いのではないか。

- (2) ボランティアはじめて講座について(資料8)

【事務局】ボランティア活動に興味を持ってもらい、ボランティアセンターに登録をし、活動につなげていくことを目的に考えている。開催について例年、2月～3月の平日の午後に、講義と車椅子体験の2部構成で行ってきた。昨年度は新型コロナウイルスの影響で参加者は5名と少なかった。参加者を増やすためには開催時期を春に変更し、夏の体験ボランティアにつなぐことも出来るのではないかと考えている。また、講座の時間や日程、内容についてもご意見をいただきたい。

【委員】ボランティアのつどいの「ボランティアって、なあに？」の配布時期が、3月から4月を予定している。それを見て興味を持ってもらい「はじめて講座」を受ける、という流れを期待するのであれば、夏休み前の時期が良いのではないか。また、コロナ禍でオンラインの開催もあり得るのか。年齢制限がないのであれば、親子でオンライン参加もできる。夕方や土日の開催でも良い。

【委員長】車いすを体験できることが魅力で参加されている人もいと聞いている。講座の内容を聞きたい。

【事務局】「はじめて講座」は登録ボランティアを増やす目的で行ってきた。ボランティアを正しく理解してもらうため、「ボランティアとは」という内容で、30～40分程度講義を行っている。小学生には難しい内容のため、夏の体験ボランティアの説明では、わかりやすい内容で伝えている。

- 【委員】車いす体験は一般の方でも興味があるので良いのではないかと。土日の開催だと夫婦で参加したり、夕方や夜間であれば就労者でも参加できたりして良いと思う。平日開催だと40～50代は働いている人が多いため、60～70代に関心を持ってもらえると良い。
- 【委員長】「親子で参加できるボランティア講座」というのも良いのではないかと。我が子に、ボランティア活動をしてもらいたいと考える方もいるのではないかと。そのようなニーズはないのか。
- 【事務局】依頼の多くは、平日の日中に行うボランティアであるため、即戦力となる活動者を求めてきた。しかし、今後は小・中学生にもボランティアを知ってもらう機会を作っていきたい。
- 【理事】ボランティアのつどいの配布物から、夏の体験ボランティアにつなげていくという委員の意見に賛成である。また一方で、ボランティア活動を始めてみたいシニアもいる。親子でも、学生でも、シニアでも、というような、チラシの打ち出し方も必要ではないかと。内容としては、輝いているロールモデルにボランティア体験談を話してもらい、「我が子もこのように成長して欲しい」「私も人の役に立ちたい」などと感じてもらえると良い。
- 【委員】ターゲットにより開催日時が変わるのではないかと。様々な人をターゲットにするならば、複数回の開催も考えたほうが良い。分散したからといって、人数が減るとは限らない。逆に増える可能性もある。
- 【委員】体験談を話してもらうことはイメージも湧きやすく、とても良いと思う。また、話を聞くだけではなく、互いに話し合える時間も設けられると、さらにイメージしやすいのではないかと。開催日時については、私の場合は土曜の午前中が参加しやすい。複数回の開催についても、良いのではないかと。
- 【委員長】例えば事業所に出張して講座を開催するのはどうか。
- 【委員】活動の様子を見てもらい、体験してもらうことは良い。実際に、支援を受ける人の困りごとを知ってもらう機会にもなる。
- 【事務局】先程、オンラインでの開催はどうか、との意見をいただいた。検討する価値があると感じた。今までは、ボランティアセンターに登録して、活動してくれる人を増やす目的で行ってきた。講座の中で関係性を築き、参加者にはその場で登録してもらった。オンラインで開催した場合、便利ではあるが、お互いの信頼関係を築くことは難しくないかと。講座終了後にボランティアセンターまで足を運び、登録してくれるだろうか。
- 【委員】登録ありきだと重荷に感じるのではないかと。登録することの魅力はなんだろうか。
- 【事務局】登録するメリットとしては、自ら活動先を見つけられない人に、希望する活動をボランティアセンターが紹介する。ボランティアセンターが紹介してくれる活動だから、安心して活動できる。このようなことを知ってもらえれば登録する意味も分かってもらえるのではないかと。
- 【委員長】今、参加されている方は、登録して積極的にボランティア活動がしたい人たちではないかと。オンラインになると、少しライトな感じの層の人たちが参加されると思う。間口を広げ、どのようにしたら「本気でやってみようかな」という気持ちにさせるか。講座を通して「ボランティアに興味はあったが実際にやりたくなかった」と思わせるアプローチが必要。活動者とボランティアを必要としている人の体験談を話してもらい、お互いが豊かな気持ちになるという価値を知ってもらえば、その先に登録もあるのではないかと。登録も

Web でできるとオンラインで講座もできるのではないか。

- 【事務局】登録については、登録される方の人柄などを知る上で、ボランティアセンターへ来ていただきたいと考えている。
- 【委員長】正式な登録までのワンステップとして、活動への意思や連絡先を聞くことはできるのではないか。
- 【理事】オンライン講座のアンケートの中で、登録を希望した人に連絡を取る方法もあるのではないか。
- 【事務局】オンラインでの講座開催も検討していきたいと思う。
- 【委員長】ボランティアに興味を持ってもらう講座と、実際に活動する上で守ってもらいたいことを伝える講座は、ひとまとめにはできないことが見えてきた。
- 【副委員長】対面でないと人柄が分からないこともあるが、出会いやつながりはとても重要である。提供するボラセン職員も見られていると意識し、熱意をもって丁寧な対応をすることが大切ではないか。
- 【事務局】来年度に向け、いただいた意見を受け止め検討していきたい。

4. そ の 他

(1) 気球くんプランについて(資料9)

- 【事務局】気球くんプランは、西東京ボランティア・市民活動センターが、「つなげる、いかす、うみだす」の3つの取り組みを通じ、すべての人びとがもつ自らの可能性を現実のものにできるような地域社会を目指すため、令和元年から5か年計画として策定した。このプランは1.コーディネート機能の強化 2.福祉のこころを育てる取り組み 3. ボランティア人材の育成(発掘) 4. 災害への備え 5. 基盤(プラットフォーム)づくり(多者協働) この5つの柱を軸に進めている。コロナの影響で遅れているもの、できていないものがあるが、運営委員会で意見をいただき進めていきたい。
- 【委員長】コロナの前は、この委員会の中で専門委員会をつくり、進めていた。ボランティア活動をしていくための資金となる「気球くんファンド」をつくろうという話もあり、動き始めていた。今後は次期の計画につなげていくということか。
- 【事務局】今のプランは令和5年度までの計画となっている。次期のプランについては検討が必要と考えている。社会福祉協議会の組織改編でボランティアセンター係から地域福祉推進係に統合された。その中でボランティアセンターが独自のプランを作成するのか、社会福祉協議会の地域福祉活動計画、アクションプランの中にある、ボランティアセンターが果たす役割などと重複する部分も記載されているため、組織全体から考えていかなければならない。
- 【委員長】気球くんプランの中で、コロナ禍でも頑張っていたものもあり、どこまで進行できているのか検証も必要ではないか。委員の皆さんと共有していきたい。
- 【事務局】前回、意見をいただいた貸出備品について、最後に報告をさせていただきたい。現在、組織内で規則改定に向けて検討中である。次回の理事会・評議員会で議案できるよう事務作業を進めている。

次回運営委員会開催日程について

■日時:令和4年3月8日(火) 18時30分～20時00分

■会場:田無総合福祉センター 3階 第1会議室

※状況により ZOOM にて開催18時00分～19時30分

配布資料

資料 1	: 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和3年11月・12月)
資料 2	: ボランティアコーディネート状況等月次報告表(令和3年12月28日現在)
資料 3	: ボランティアコーディネート実績表(令和3年11月・12月)
資料 4	: 軒下ふれあいバザー開催報告
資料 5	: 災害ボランティア養成講習会開催報告
資料 6	: 西東京ボランティア・市民活動センター事業業務予定(令和4年1月・2月)
資料 7	: ボランティアのつどいについて
資料 8	: ボランティアはじめて講座について
資料 9	: 気球くんプランについて